

第5章 目指すべき都市像の実現とまちづくりの基本目標の達成に向けて

- 1 市民が主役のまちづくり・多様な主体による連携
- 2 北海道と共に発展する札幌市
- 3 SDGsの視点を踏まえたまちづくり
- 4 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）の策定
- 5 オリンピック・パラリンピック冬季競技大会によるまちづくりの加速化

第5章 目指すべき都市像の実現とまちづくりの基本目標の達成に向けて

この章では、「目指すべき都市像」（第3章）の実現と「まちづくりの基本目標」（第4章）の達成に向けて、札幌市（行政）がまちづくりを進めるために必要な考え方を示します。

1 市民が主役のまちづくり・多様な主体による連携

札幌市自治基本条例にも定められているとおり、まちづくりは市民が主役であることを基本としています。子どもから大人までのあらゆる世代の市民や企業、各種団体、行政など、まちづくりに関係する様々な主体が、第2次戦略ビジョンを共通の目標として広く共有し、それぞれの持つ力を発揮しながら、連携して取り組んでいくことが必要です。

2 北海道と共に発展する札幌市

札幌市は、多くの人口を抱える大消費地であり、その社会経済活動は、道内各地域の生産者や、自然、資源、エネルギーなどに支えられています。一方で、札幌市は大都市ならではの機能を通じて各地域を支える役割を担っており、札幌市と北海道の発展は一体の関係にあります。

今後は更に連携を深め、地域循環共生圏の形成を進めるとともに、札幌市の持つ集客、消費、流通などの機能のみならず、大学や産業支援機関等による研究・商品開発の機能と道内各地域が持つ資源を結び付けるなどして、双方の発展を目指していく必要があります。

また、さっぽろ連携中枢都市圏のけん引役としても、関係自治体と共に考え、連携しながら国内外から活力を呼び込んでいきます。

3 SDGsの視点を踏まえたまちづくり

まちづくりを進めるに当たっても、SDGsの17のゴールのみならず、「誰一人取り残さない」という理念や「経済・社会・環境」の3側面の課題の統合的解決という視点を踏まえて取り組んでいく必要があります。

この統合的解決の視点を踏まえたまちづくりにおいては、例えば、居心地が良く歩きたくなるまちづくりを進める際に、歩行環境の改善や魅力的な空間の整備により、人の往来を増やし、まちににぎわいを創出するとともに、一人一人の健康増進や自家用車などによるエネルギー消費の抑制にもつなげるなど、複雑化する課題に対し、多角的な視点から様々な要素を統合的に捉えていくことが求められます。

4 第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）の策定

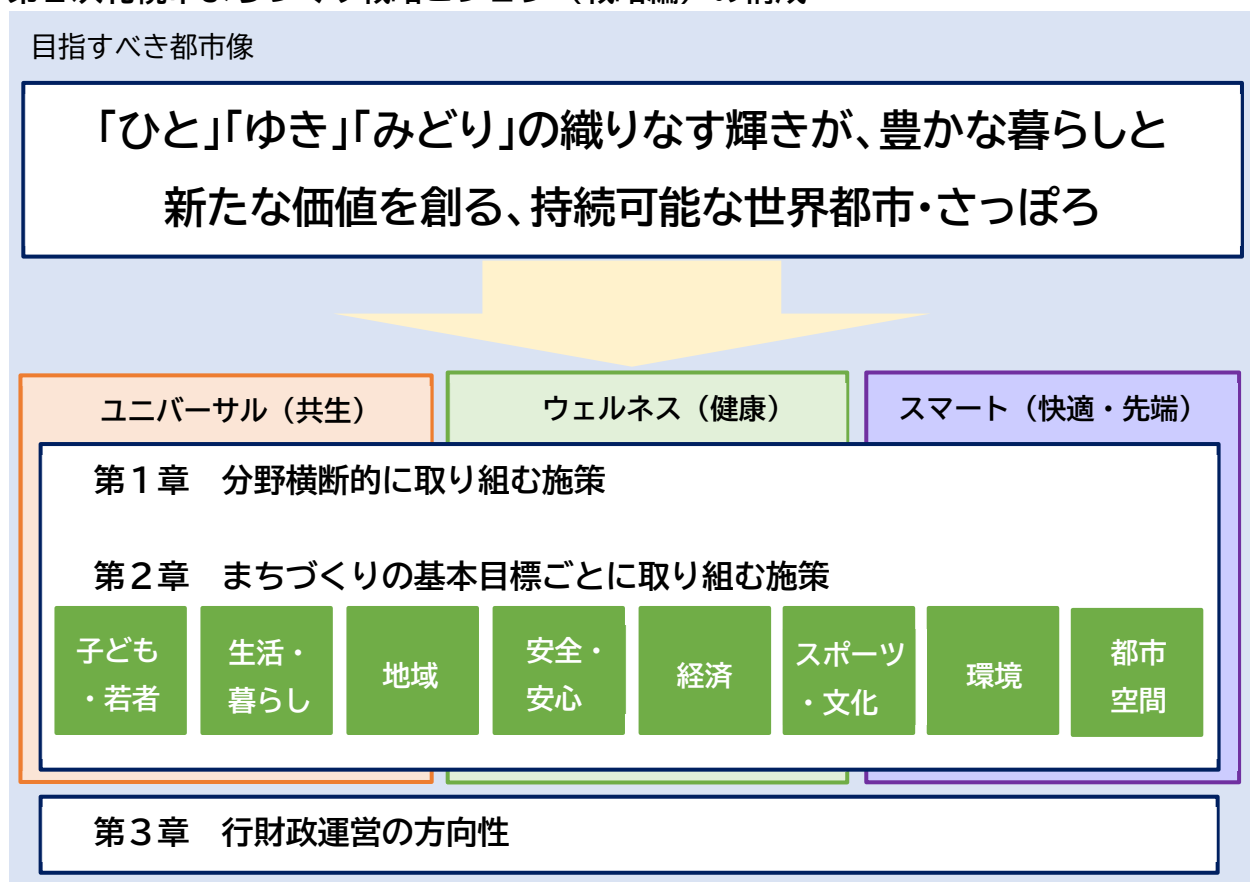
今後は、より複雑化した課題が顕在化することも見込まれます。このため、より一層「分野横断的」に課題に立ち向かい、戦略的にまちづくりを進めていくことが重要となります。

そこで、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）では、「目指すべき都市像」を実現するため、「まちづくりの重要概念」である「ユニバーサル（共生）」・「ウェルネス（健康）」・「スマート（快適・先端）」を踏まえて、分野をまたがる課題・観点を整理し、分野横断的に取り組む「施策」と「まちづくりの基本目標」ごとに取り組む「施策」を定めます。

その上で、施策の着実な推進を支える観点である行財政運営の方向性についても併せて定めます。

また、施策の評価やその結果を踏まえた改善を適時行っていくため、指標の設定などの進捗管理の手法も戦略編で定めます。

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）の構成



5 オリンピック・パラリンピック冬季競技大会によるまちづくりの加速化

オリンピック・パラリンピック冬季競技大会がもたらすレガシー¹⁵³は、「まちづくりの重要概念」と密接に結びつくものです。

例えば、「ユニバーサル（共生）」の観点では、大会の開催を契機として、障がいのある方を含む様々な方を国内外から迎えるために建築物や宿泊施設のバリアフリー化が進むとともに、心のバリアフリーが市民などに広く浸透することが見込まれます。

また、「ウェルネス（健康）」の観点では、スポーツを「する・みる・ささえる」の充実は、心身の健康を増進し、生涯現役として活躍できる期間を延ばすものです。加えて、この大会はスポーツの祭典であると同時に「文化」の祭典でもあります。このため、札幌市ならではの文化を世界に発信することができるとともに、文化に親しむ機会や創造力と感性を育む機会が増え、精神的な健康につながります。

さらに、「スマート（快適・先端）」の観点では、令和12年（2030年）以降のオリンピック競技大会は、温室効果ガスの削減量が排出量を上回る「クライメート・ポジティブ」な大会であることが求められています。その実現のため、大会をきっかけに新しい環境技術が活用されることで、札幌市発の「環境のレガシー」が世界中に広まります。これは、地球温暖化という人類共通の課題を解決に導く手立ての一つとなり、札幌市が世界にもたらす好影響であるといえます。

また、大会の開催が決定した後、開催都市を訪問する外国人の数が長期間にわたって増加する傾向があることに加え、大会を通じて世界に誇れるスノーリゾートとしての地位を確立することにより、様々な産業への波及効果が期待されます。

このように、オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の準備・開催は、市民のまちへの愛着や一体感の醸成はもとより、今日的な課題を克服し、札幌市というまちを新たなステージへと押し上げていくことが見込まれます。札幌市では、この機を捉え、「目指すべき都市像」の実現と「まちづくりの基本目標」の達成に向けた様々なまちづくりの取組を官民一体となって加速させていきます。

¹⁵³ 【レガシー】オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により開催都市や開催国が長期にわたり継承・享受できる、大会の社会的・経済的・文化的な恩恵

